

自ら考え社会参画する力の素地を育てる社会科学習

～山武市の米づくりの学習を通して～

1. 設定理由

第4次産業革命ともいわれる、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近なものの働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている。しかし、いかに進化した人工知能でもそれが行っているのは、与えられた目的の中での処理である。どのような未来をつくっていきたいか考えるのは、豊かな感性を持つ人間の役割である。そのような現状の中で、子どもたちには、社会とつながりを持ち、よりよい社会をつくろうとする力、つまり、社会参画力が求められる。

一方日本の社会に目を向けると、日本の農業が今や深刻な高齢化の問題を抱えている。日本の農家が人口に占める割合は1.6%とされており、日本の農業人口は2016年のデータでは192万人である。農業人口の65%は65歳以上であり、39歳以下はわずか7%という現実が非常に問題となっている。

そのような農業を取り巻く環境の中で、児童に身に付けさせなければならない小学校段階での社会参画力の素地には、次の3つの力があると考ええる。

①自分の生活と深く関わっている地域の農業の課題に気づき、自分たちのこととして考える力

②たくさんの立場の人々の思いや願いを理解し、それをもとに自分の考えを形成する力

③他者との話し合いを通して自分たちの考えを高め合い、関心をもち続けようとする力

本研究では、これら3つの力を身に付けさせることを、社会参画力の素地の育成と捉えていく。

今日では、子どもたちに社会を支える一員であるという自覚をもたせ、社会参画力の素地を育てられるこうした社会科学習が求められている。そうしたことから、今を生きる子どもたちがこれから先の未来に向けて自分たちはどうするべきかを考え、自分も社会の一員であることに気づき、社会の形成に参画する力の素地を育てることをねらい、本主題を設定した。

2. 研究仮説

地元の農家の課題を知り、ゲストティーチャーを活用した授業展開を行い、学び合いの場を設定すれば、今後の農業のあり方について自ら考えることができ、社会参画する力の素地が育つであろう。

3. 研究内容

本研究は、まず庄内平野（東北地方）の米づくりの課題、願い、工夫について学習する。次に、その学習を生かして児童に山武市の農家の課題や願いに向き合わせていく。今後、「山武市の米づくりをどのように発展させていくか」について、自分の考えをもたせ、自分たちの地域の農家の魅力やよりよい未来について考えさせていく。こうした学習を通して、子どもたちの「自ら考え社会参画する力の素地を育てる社会科学習」のあり方について研究を進める。

4. 結論

○子どもたちは、「山武市の農家を発展させたい」「お米を広めたい」という思いをもち、学習に意欲的にとりくんだ。また、山武市の農家の未来に対して自分の考えをもち、それをまとめて提案することができた。これらの学習を通して、「これからも地元の農家のために関心をもち続け、自分たちにできることをしたい」という思いを強くもてるようになり、社会の形成に参画する力の素地を育てることができた。

1 研究主題

自ら考え社会参画する力の素地を育てる社会科学学習
～山武市の米づくりの学習を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会科の現代の課題から

第4次産業革命ともいわれる、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近なものの働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている。しかし、いかに進化した人工知能でもそれが行っているのは、与えられた目的の中での処理である。どのような未来をつくっていきたいか考えるのは、豊かな感性をもつ人間の役割である。そのような現状の中で、子どもたちには、社会とつながりを持ち、よりよい社会をつくろうとする力、つまり、社会参画力が求められる。

一方日本の社会に目を向けると、日本の農業が今や深刻な高齢化の問題を抱えている。日本の農家が人口に占める割合は1.6%とされており、日本の農業人口は2016年のデータでは192万人である。農業人口の65%は65歳以上であり、39歳以下はわずか7%という現実が非常に問題となっている。

そのような農業を取り巻く環境の中で、児童に身に付けさせなければならない小学校段階での社会参画力の素地には、次の3つの力があると考ええる。

①自分の生活と深く関わっている地域の農業の課題に気づき、自分たちのこととして考える力

②たくさんの立場の人々の思いや願いを理解し、それをもとに自分の考えを形成する力

③他者との話し合いを通して自分たちの考えを高め合い、関心をもち続けようとする力

本研究では、これら3つの力を身に付けさせることを、社会参画力の素地の育成と捉えていく。

今日では、子どもたちに社会を支える一員であるという自覚をもたせ、社会参画力の素地を育てられるこうした社会科学学習が求められている。そうしたことから、今を生きる子どもたちがこれから先の未来に向けて自分たちはどうするべきかを考え、自分も社会の一員であることに気づき、社会の形成に参画する力の素地を育てることをねらい、本主題を設定した。

(2) 児童の実態から

本校の学区は国道沿いは建物が多いが、国道から少しずれば見渡す限りの田んぼが広がっている。そのような環境の中で子どもたちは育ってきていることから、小さい頃から稲作を目にしている。

しかし、実際に自分たちが稲作に関して興味があるかという、そうではない。また、本校の学区で育てている米がブランド化されているかというそうではない。こうした実態から、学区の農業が抱える課題が、自分の郷土に愛着を持たせ、社会の一員としての自覚をもたせるために教材となりうるものではないかと考えた。

本学級の児童は、近くの農家の方の好意により、地域の田を利用して稲を植えたり刈ったりするなど、作業や日常の観察などの体験的な学習活動を行っている。

しかし、事前調査の「これからの米づくりについてどう思いますか。」という問いに対しては、「頑張ってほしい。」「農業の人が増えてほしい。」などと答えており、自分たちの地域の農業の

課題を、切実な問題としてではなく、何となく他人事と捉えている傾向が見られた。また、児童によっては、「よいお米を作ってほしい。」と答えており、関心を示しつつも農業の問題はあくまで他人事であり、自分は「ご飯として出されたものを食べるだけ」の存在であるということが見て取れる。

なぜ、このような結果になったのだろうか。考えられることの大きな要因として、

- ① 地域の米がブランド化されていない。
- ② 地域の米が市場に広く出回っていない。
- ③ 米づくり農家の課題を学習していないため、切実感をもっていない。

ということがあげられる。

そこで、全国的に稲作が有名で山武市の米づくりとは対照的な庄内平野の米づくりについて、山武市と比較しながら学習することで、山武市の米づくりの課題を明確にし、今後の自分たちや地域の在り方について考えさせていきたいと考えた。

本単元では、日本人の主食の米について学習をしていく。給食でも家庭でもよく食べられている米であるが、子どもたちはその有難さを十分に感じることができていないのではないかと感じる。普段の給食でもご飯を残すなど、食に対する意識が低い子どもも多くいる。誰もが食べる米に焦点を当て、生産に従事する人々の苦労や努力、また、たくさんの人々の思いが込められていることを学ぶことで、子どもたちの食に対する意識も変えていきたいと考えた。

3 単元について

農業は、国民の食生活を支える重要な産業である。そしてそれらは、農業に従事している人々の工夫や努力、貿易や運輸業との関わりの上に成り立っている。農業に従事する人々は、消費者の需要に応え、良質で新鮮なものを作り出すために、地形や気候条件などの自然条件を生かしながら、生産を高める工夫や努力をしている。

このことを踏まえて、農家や農業協同組合、農業試験場など、米づくりにとりくむ人々の働きに関心を持ち、地形や気候などの自然環境を生かしたり、おいしく安全な米を効率よく生産しようと努力している様子を調べたりしながら、考えを深められるようにしていく。

本単元の導入では、初めに米の産地を調べ、普段食べているお米がどこからきているのかを学習する。これにより、食料の産地や生産に興味を持ち、自分たちの生活との関わりに気付かせたい。次に、庄内平野を例に、気候や水、土地などの自然条件との関わりや、品種改良、耕地整備などの人々の努力について学習する。また、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きによって自分たちの生活が支えられていることに気付かせていく。

その後、山武市の米づくりについて、米農家や生産量の減少などの地域の課題についてゲストティーチャーである花澤さんから話を聞く。この学習は、自分なりの意見を持ち、考えをまとめていけるようにすることをねらいとする。米は日本人の主食である。通称「田んぼの先生」の花澤さんは、「無農薬で自然のままの農業をしたい」「安全な作物をつくりたい」という願いを大切にされ、自然・安全にこだわった農業を行っている。身近な山武市でもこのような米づくりを行っていることを学ばせることで、児童が米づくり農家の人々の願いを身近に感じられるようにした。

4 研究目標

庄内平野の米づくりで学んだことを生かし、「山武市の米づくりを今後どのように発展させていったらよいか」について、地域の農家の魅力やよりよい未来へ目を向けながら、自分の考えをもつ中で、児童が自ら考え社会参画する力の素地を育てる。

5 研究の仮説

農業の学習において、地元農家の課題を理解し、課題解決のための学習を深めていけば、自ら今後の農業のあり方について考えるようになり、社会参画力の素地が育つであろう。

6 仮説を検証するための手立て

手立て① 毎時間の授業で考えたアイディアを書き貯めるアイディア帳の活用

→山武市の農業を発展させるために、アイディア帳に活用できそうなものを集める。

毎時間、庄内平野の米づくりの学習の終わりには、各自感想を書かせる他、授業で学んだことの中で、「山武市の農業に取り入れられそうなもの」「取り入れられなそうなもの」について自分の考えをアイディア帳に書きためるようにした。毎時間の授業で考えたアイディアを集めていくことで、庄内平野の米づくりについて学習を進めながらも「山武市の米づくりを広めるためにはどうしたらよいか」という視点をもつこと、自分たちにできることは何かを考える際のヒントにつなげることができると考えた。こうした積み重ねがなければ、山武市の米づくりを発展させる方法や工夫を生み出すことは児童にとって難しい。日本有数の米の産地である庄内平野の米づくりの、様々なとりくみをヒントにすることで、山武市の地形、気候、工夫、品種改良、運輸はどうなっているのかなどの視点をもたせることができるのではないかと考えた。また、地域の課題を何とかしたいと思っている児童は、「山武市の米づくりを広めるためにこうしたらよいのではないか。」というアイディアを意欲的に書きためていくことで、地域の農家の未来に対してまで、自分たちの考えをもつことにつながると考えた。

手立て② 学習を深めるための、学び合い、教え合いなどの学びの場の設定

→似た考えをもつ児童でグループをつくったり、グループ間で意見交換をしたりさせるなどして、考えをより深めさせる。

山武市の米づくり農家の課題を、児童が自分たちで、

- ①おいしくするための工夫 ②お米を高く、たくさん売するための工夫
- ③後継者を増やすための工夫 ④費用を安くするための工夫に分類する。

の4つのグループに分類した。そして、興味・関心のある内容、調べていきたい内容をもとにそれぞれ2グループずつ（合計8つのグループ）を作り、グループごとに調べ学習を進めた。調べ学習は、個人で進めながら自分たちのグループのメンバーと意見を伝え合いながら行っていた。学習の途中で、同じ工夫について調べているグループと意見交換をした。意見交換のルールとして、相手にわかりやすくすることや根拠を明確にすることなどを伝え合うことを意識して意見交換をさせた。より良い工夫にするために、実現させるための手助けとなるアドバイスをお互いでのグループで伝え合うことで、自分たちの考えを明確化し、考えを深めることにつながった。

手立て③ 地域の農家の課題を知り、切実感をもって学習にとりくむためのゲストティーチャーを活用した授業の展開を行う。

→山武市の米づくりの課題・願いを聞き、これからの米づくりについて考える。

庄内平野の学習後、「山武市の農家の米づくりはどうなっているのか。」という疑問を解決するために、総合的な学習の時間での田植え体験でもお世話になっている農家のゲストティーチャーを2回お招きした。そこで山武市の農家の課題や願いを聞き、そこから、実際の山武市の農家の

現状を知ること「今困っているのでは何とか協力したい。自分たちにできることはないか。」と他人事ではなく、自分たちの地域の問題として受け止めることにつながると考えた。

1回目の訪問時には山武市の米づくり農家の課題や願いだけに絞ってお話をいただき、「工夫についてはみんなにも考えてもらいたい」と児童に伝えてもらうことで、「みんなで考えよう、何とかしよう」と意欲的に学習にとりくむことができると考えた。

また、2回目の訪問時には、自分たちが考えた工夫についてゲストティーチャーに提案の発表をすることにした。こうした場を設定することで、発表をよりよいものにし、ワンランク上の工夫を伝えたいという意識の向上につながると考えた。

7 単元の実際（13時間）

つかむ・・・給食・家庭・販売店の米の名前、産地調べ

調べる・・・日本有数の米の産地である庄内平野米づくりの学習

深める・・・山武市の米づくりについて考える

生かす・・・自分たちの考えを提案する。

	時配	活動とねらい	主な児童の反応
つかむ	1	○普段食べている米が、どこで生産されているかを調べる。 自分たちが食べている米はどこで作られているのだろうか。	・ぼくはスーパーで調べてくる。 ・私はお母さんに聞いてみる。 ・給食は山武市の米を使っているね。 ・給食センターの人に聞いてみよう。
調べる	2	○産地調べをしたものを白地図にまとめる。 産地調べをして、気付いたことをまとめよう。 自分たちが食べている米は、東北地方で多く作られている。	・東北が多い。 ・なぜ、東北が多いのかな。 ・関西方面からはあまり来ていない。 ・この地域のもはどこに出荷されているのかな。 ・山武市の米はあまり売っていない。 ・庄内平野で作ったお米が売っていた。
		庄内平野では、どのように米づくりを行っているのだろうか。	
	3	○航空写真を見て庄内平野に興味をもち、庄内平野の米づくりについて調べてみたいという意欲を高める。 庄内平野は、どのようなところなのでしょう。	・広い平野が広がっている。 ・大きな川が流れている。 ・ほとんどが水田。 ・色が違う田んぼがある。 ・山武と同じところがある。 庄内平野は、広い平野を利用して米作りを行っている日本有数の米の産地である。
	4	○写真や地図、資料などをもとに庄内平野で米づくりのさかんなわけを、自然環境の観点からとらえる。 庄内平野は、どうして米づくりに適しているのでしょうか。	・最上川、赤川、日向川など水が豊富。 ・冬の北西季節風、たくさんの雪。 ・最上川が運んだ土のめぐみ。 ・日照時間が長い。 ・米は、昼夜の気温差が大きい所の方がおいしい。

		庄内平野は、平らな広い水田、降水量、季節風、夏の日照時間、昼夜の気温差の大きいなど、米づくりに適した自然環境がととのっている。	
	5	○よい稲を育てるための工夫や努力を調べ、庄内平野の農作業暦をまとめることができる。 米づくりには、どのような工夫や努力があるのでしょうか。 種まきから収穫まで稲の成長に合わせ、様々な機械を使いながら工夫や努力を重ね稲を育てている。	・水の管理は一番大変。 ・米づくりは、2年前から計画的に行っている。 ・たくさんの機械を使っている。 ・たくさんの工夫や努力がある。
	6	○米づくり農家は協力して作業をしたり、仕事を請け負ったり、共同で機械を使用したりしていることを理解する。 庄内平野は、よりよい米づくりのために、どのように協力しているのでしょうか。 農家の人々は、農業機械を借りて共有したり、作業時期の相談をしたりするなど、共同作業をして生産の効率が高まるようにしている。	・田が長方形で広い。 ・農業機械を共有して使っている。 ・共同作業をして生産の効率が高まるようにしている。 ・農家の人には、いろいろな仕事がある。 ・米づくりを発展させるために勉強会を開いている。
	7	○おいしいお米をつくるために、資材を提供したり営業指導したりする組織があること、また、先人の努力を引き継いで現在も品種改良の研究を続ける人々がいることを理解する。 農家の人たちを、だれがどのように支えているのでしょうか。	・米づくりを支えるさまざまな仕組みがある。 ・おいしいお米にするために、たくさんの品種改良を行っている。 ・寒い所でもよく育つ。 ・一本からたくさん実がとれる。 ・病気に強い。 JAや水田農業試験場など、地域には米づくりを支えるさまざまな仕組みがある（品種改良・営農相談）。
	8	○庄内平野の米が、品質を保ったまま消費地に届けられるための保管の工夫と運輸の働きを理解する。また、米の値段には様々な経費が含まれていることがわかる。	・トラックも温度調整している。 ・トラック、鉄道などを使っている。 ・お米がとどくまでにはたくさんの費用がかかる。 （費用） ・保冷倉庫の保管費用、生産費、輸送

深める		庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられているのでしょうか。	費、精米費、宣伝費、袋代等 ・ J Aを通して個人契約
	9	ゲストティーチャーとの学習① ○ゲストティーチャーを招き、地元の農家の課題や願いを聞く。 山武市の米づくりにはどんな課題やねがいがあるのだろうか。	・ ジャンボタニシの駆除に困っている。 ・ 米がブランド化されていない。 ・ お米の値段が下がっている。 ・ お米が余っている。 ・ 後継ぎ問題。
		山武市の米づくりの課題を改善するにはどうしたらよいだろうか。	
	10	○山武市の米づくりの課題を分類し、自分たちに何ができるか考える。 山武市の米づくりの課題を改善するにはどうしたらよいだろうか。	・ おいしくするための工夫 ・ 高くたくさん売するための工夫 ・ 後継ぎ問題解消の工夫 ・ 費用を安くするための工夫
	11 12	○地域のために、自分たちに何ができるかを考える。	・ 同じテーマのグループとの意見交換（深め合い） ・ 個→同じグループ→他グループ→まとめる
活用する	13	ゲストティーチャーとの学習② ○地域のためにもっと自分たちに何ができるかを考える。	・ 山武市の農家の方はたくさんの工夫をしている。 ・ 山武市のお米を広めたい。

8 授業の実際と分析

(1) 授業の実際と児童の変容

手立て① アイディア帳の記録

授業時間	学習問題	アイディア帳の記録 —授業で学んだことで、地域で使えそうなものは？ 取り入れられそうなものは？—
第3時	庄内平野は、どのようなところなのでしょう。	・ 土を栄養があるものにする。 ・ 田んぼや自然を増やす。 ・ お米の種類を増やす。
第4時	庄内平野は、どうして米づくりに適しているのでしょうか。	・ 千葉の名物にする。 ・ 山を上手に生かす。 ・ 雪解け水は厳しいが、水をよくする。 ・ 虫を増やさないようにする。
第5時	米づくりには、どのような工夫や努力があるのでしょうか。	・ チラシ、新聞、広告 ・ よい種もみ ・ 土づくり ・ 水の調節する回数を増やす。

第6・7時	庄内平野は、よりよい米づくりのために、どのように協力しているのでしょうか。農家の人たちを、だれがどのように支えているのでしょうか。	・ポスター ・ボランティア ・募金活動・学校で農業体験を位置付ける。(小・中) ・協力して機械を買う。・勉強会・共同作業 ・品種改良・ブランド化・お米→別の食べ方も活用 ・機械の貸し借りができるようにする。
第8時	庄内平野のお米は、どのように消費者に届けられているのだろうか。	・費用を安くする工夫が必要。 ・トラックの活用(山武市のお米をアピールする。)

【アイデア帳にあった山武市米づくりのアイデア】

・山武市のお米をアピールするためにトラックで売りに出る。

・品種改良を行い、新しいお米を作る。
(名前を考える。)

・山武市でも農業の機械のトラクターを貸し借りできるようにする。(共同)

・山武市のお米を広めるために勉強会を開くようにする。

手立て② 同じテーマのグループどうしでの意見交換の実際

○個人で調べたい内容を決め、自分たちのグループと話し合いながら考えをまとめていった。そして、意見交換の場を設け、同質の工夫のグループどうしで自分たちの考えをお互いに伝え合った。話し合いの中で、「もっとこうするとわかりやすくなるよ」「理由をつけると説得力が増すと思うよ。」などお互いのグループがプラスになるような意見交換にすることができた。また、話し合った内容を自分たちのグループに持ち帰り、再度話し合いをすることで自分たちの考えを再構成し、深めることにつながった。

○児童の感想から

別のグループと交流して、いろいろな意見がでて、まとめが良くなったので良かったです。

別のグループと交流してたくさんよい意見をもらいました。そのおかげで、よりいっそういい発表ができそうです。

手立て③ ゲストティーチャーによる学習の実際

○課題の把握

庄内平野の米づくりについて学習した後に、ゲストティーチャー(農家)に来ていただいた(1回目 第9時)。その授業の中では、今まで学習してきた内容をグループごとに発表した。発表後、その内容についてゲストティーチャーから意見を聞いた。そして、山武市の米づくり農家の課題についてお話をしていただいた。

最後に地域の農家の方の願いについてもお話ししていただいた。今後学習していく際に、より具体的に聞いておきたいことなど質問することができた。その場で出た児童の質問に適切に対応ができることにより、児童の満足感が得られた。実際に山武市の課題を聞くことで、今後どうしていくべきかを考えさせることにつながった。自分たちができることは何かと児童の意欲を高めることにつながった。

○課題の分類・整理

山武市の農家の課題を聞き、児童がその課題を4つのグループに分類した。その4つの課題から自分が調べたい、考えていきたいものと考え、2つのグループずつの8つのグループに分け、調べ学習を進めた。

○発表する場を意図的・計画的に設ける

自分たちで考えた工夫をゲストティーチャーに来ていただいて発表をした（2回目 第13時）。発表後にそれぞれのグループのよかったところ、改善するとよいところなど具体的にお話していただいた。そして、山武市の農家が行っている工夫や役場に勤めていた時のお話をしていた。これにより農家だけでなく、役場の視点でも考えることができた。

この活動を通して、「社会参画力をもった人たちの生き方を学ぶ」、つまり「生き方に共感すること」で子どもたちの社会参画する力の素地を育てることにつなげていくことができた。

8つのグループの発表内容

1班	3班	5班	7班
○お米以外の活用・料理 ○品種改良	○チラシ・ポスター トラックで宣伝する。 (東京・東北へ直接販売)	○お米の会社の設立 若い人に教えながら育てる。	○ツバキ油を活用する。(学校で作る。)
2班	4班	6班	8班
○ジャンボタニシの駆除の方法	○キャラクター(お米のパッケージにする。) ○ジャンボタニシ駆除をイベントにして体験できるようにする。	○農業の村(農家体験) 農業体験を幅広い年齢層に体験させる。	○農業機械のレンタル 店をつくる。ポイントカードを取り入れる。

(2) 児童の変容

前述した社会参画力の素地を育てるための3つの力

①自分の生活と深く関わっている地域の農業の課題に気づき、自分たちのこととして考える力

②たくさんの立場の人々の思いや願いを理解し、それをもとに自分の考えを形成する力

③他者との話し合いを通して自分たちの考えを高め合い、関心をもち続けようとする力
について評価するために、1回目のゲストティーチャーとの学習(第9時)後の感想、2回目のゲストティーチャーとの学習(第13時)後の感想、単元終了後のお礼の手紙の中に3つの力に関する内容を記述したかどうか調べた。すると、3つの力に関する記述をした人数は次のように変化した。

社会参画力の素地を育てる3つの力	ゲストティーチャーとの学習 1回目	ゲストティーチャーとの学習 2回目	単元終了後(お礼の手紙)
①自分たちのこととして考える力	8人	9人	21人
②自分の考えを形成する力	4人	14人	16人
③関心をもち続けようとする	3人	4人	21人

〔記述例 下線部が3つの力に関する記述であると教師が判断した文 上位〕

1回目のゲストティーチャーとの学習(第9時)後の感想から

お米がもしもなくなったらいやだなーとみんな思うと思うし、本当にそういうことになりたくないの①少しでも農家にふれてみたいです。

↓

2回目のゲストティーチャーとの学習(第13時)後の感想から

川島さんが最後に言ってくださったことも勉強になりました。花澤さんもうそがしくて、これなかったけど農家が大変だということを知りました。農家の楽しさ苦しさがある。①ぜったいにしよう来農家をできれば取り組みたいです。山形県や新がた県のような米を作るようにみんなで調べた発表でいっているようなことを②はるかにこえた方法でいきたいです。ごみの管理、水、稲はいまどんなかんじなのかという①見回りをなるべくしてみたい。

↓

単元終了後のお礼の手紙から

わたしたちも川島さん、花澤さんのような③農家のことについてこれからもかんがえていきたいです。だってお米が好きだからです。ごはんは、栄養があり、体にいいおいしい食べ物だからで

す。そんなものを食べない人は損です。③お米をこれから今以上にいっぱい食べたいです。川島さん、花澤さん体に気をつけて農家を良くして行って下さい。

〈記述例 下線部が3つの力に関する記述であると教師が判断した文 下位〉

1回目のゲストティーチャーとの学習（第9時）後の感想から

これからどんどんお米を作る人がどんどん増えていくといいです。



2回目のゲストティーチャーとの学習（第13時）後の感想から

①ボランティアでできるならやりたいし、ゲームなどを考えてたくさんの人たちと一緒にがんばりたいです。



単元終了後のお礼の手紙から

①わたしたちが大人になったらお米のことをどんどん世界に広げていきたいです。③後とりが見つかる方法を考えていきたいです。

以上の結果をみると、3つの力に関する記述をする児童が、学習を進めていくごとに増えていることがわかる。こうしたことから、本実践が社会参画力の素地を育てることにつながったと考える。

9 成果と今後の課題

成果

- 山武市の米づくりのアイディア帳に自分の考えを授業の終わりに書きためていったため、調べ活動の際にもアイディア帳を参考にしながら児童が進んで活動することができた。
- 同じテーマの工夫を調べているグループとの意見交換を取り入れることにより、実現させるための手助けとなるアドバイスをお互いに伝え合い、自分たちの考えを形成し、考えを深めることにつながった。
- ゲストティーチャーに発表の内容を伝えるという場を設定することにより、発表の内容をよりよいものにしようと意欲が高まり、実物投影機、ペープサート、タブレットを使うなどしてわかりやすく説明することができた。その結果クラス全体の理解が深まった。
- 地元農家をゲストティーチャーとして迎え、地域の農家の課題の現状を知ること、児童が切実感をもつようになり、他人事ではなく、自分たちにできることは何かを考えること、できることをしたいという思いで学習することができた。このことが、山武市の未来に対して自分の考えをもち、社会の形成に参画する力の素地を育てることにつながったと考える。

課題

- 学習を深めていくためには、庄内平野に関する知識だけでなく、山武市の地理的条件に関する知識が必要であったが、それに関する知識が不足していた。3年時の地域学習の際に、地域の地理に関する知識を定着させていきたい。
- 本研究では、クラスが意欲的に意見交換することができる実態があったため、児童が主体的に学び合う場をつくることができたが、違うクラスの実態の場合、グループ編成の際に、中心となる児童を配置するなどの工夫が必要である。
- 地域の農家である、ゲストティーチャーとの日程の調整が難しかった。地域の課題を、切実感をもってゲストティーチャーは欠かせないため、計画的に事前の連絡を密に取るなど、学習を進めていく必要がある。

自ら考え社会参画する力の素地を育てる社会科学習

～山武市の米づくりの学習を通して～

資料編

資料1 山武市米づくりアイデア帳（ワークシート）

資料2 アイデア帳にあった山武市米づくりのアイデア

資料3 児童の変容（上位・中位・下位）

資料4 山武市の農家（花澤さん）の課題・工夫・願い

資料5 授業の実際の様子

資料6 社会参画する力の素地（児童の変容）

資料7 農家の方へのお礼の手紙

米づくりのさかなな地域



名前 ()

◎授業の感想を書きましょう。

山武市米づくり～アイデア帳～

授業で学んだことの中で 地域で使えるもの？ 取り入れられそうなものは？	授業で学んだことの中で 地域で使えるもの？ 取り入れられそうなものは？

○どうしたら山武の地域でも同じことができるか？

--

資料2 アイディア帳にあった山武市米作りのアイディア

山武市米作り～アイデア帳～

山武市米作りの アイディア帳	山武市米作りの アイディア帳
農業共同組合	
品種改良	
勉強会	



Qどうしたら山武の地域でも同じことができるか？
耕地整備をすれば、おいしい米が作れる。

山武市米作り～アイデア帳～

山武市米作りの アイディア帳	山武市米作りの アイディア帳
あたらしく米をつくる	ない
さかいて米をくにと。	



Qどうしたら山武の地域でも同じことができるか？
名前をさめる。

山武市米作り～アイデア帳～

山武市米作りの アイディア帳	山武市米作りの アイディア帳
おいしい米をつくる	
ふたつ	



Qどうしたら山武の地域でも同じことができるか？
ホスターなどを作る

山武市米作り～アイデア帳～

山武市米作りの アイディア帳	山武市米作りの アイディア帳
山武市米作り アイディア帳	



Qどうしたら山武の地域でも同じことができるか？
山武市米作りアイディア帳

山武市米作り～アイデア帳～

山武市米作りの アイディア帳	山武市米作りの アイディア帳
山武市米作り アイディア帳	ブランド米
ふたつ。	



Qどうしたら山武の地域でも同じことができるか？
山武市米作りアイディア帳

山武市米作り～アイデア帳～

山武市米作りの アイディア帳	山武市米作りの アイディア帳
山武市米作り アイディア帳	
山武市米作り アイディア帳	

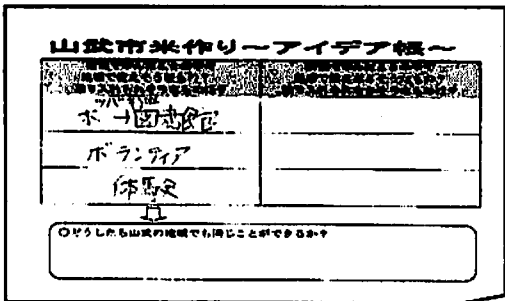


Qどうしたら山武の地域でも同じことができるか？
山武市米作りアイディア帳

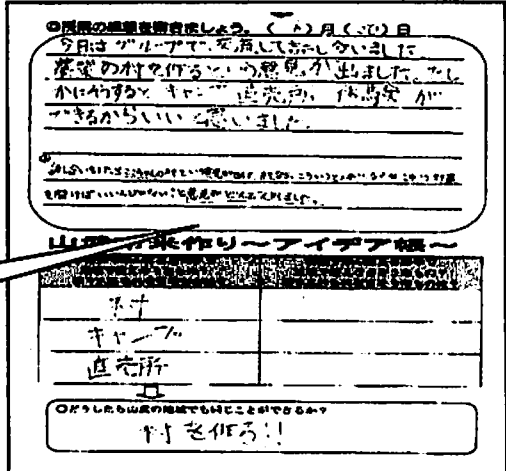
資料3 児童の変容（意見交換前・後）

<児童A> 児童の変容（上位）

交流前



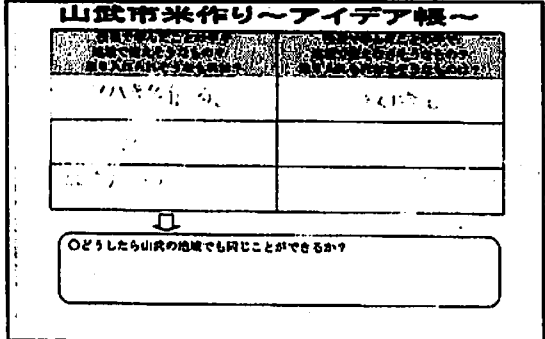
交流後



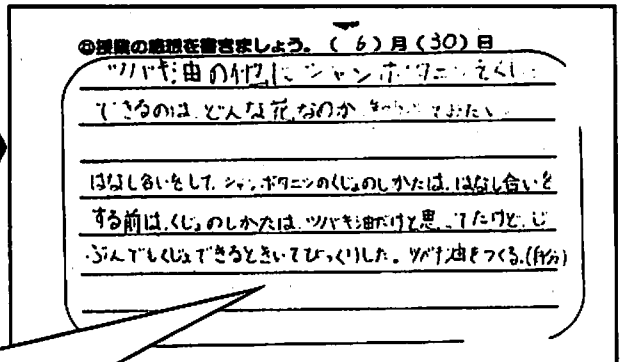
意見交換をして、体験活動に考えが広がった。農業の村をつくり、農業体験できたり、直売所にしたりとより具体的な考えに至っている。

<児童B> 児童の変容（中位）

交流前



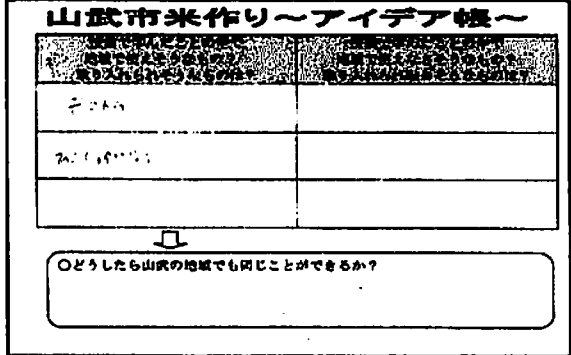
交流後



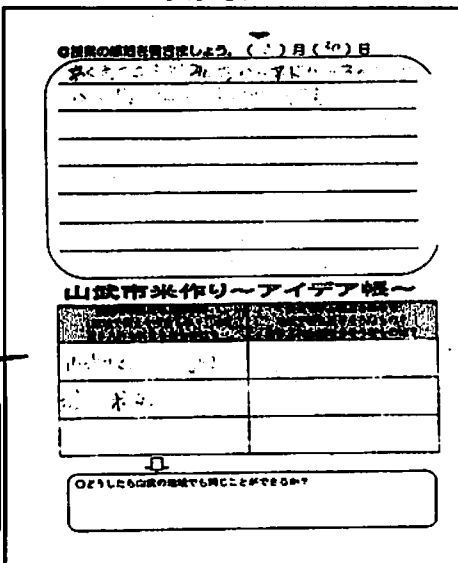
意見交換をしたことで、ツバキ油に対しての考えが深まった。また、ツバキ油を自分たちで作ろうという考えになった。

<児童C> 児童の変容（下位）

交流前



交流後



意見交換をしたことで、トラックに、山武市くんのキャラクター（お米）をデザインするという考えに広がっている。

資料4 山武市の農家（花澤さん）の課題・工夫・願い

課題			
・ジャンボたにしの駆除→稲を食べてしまうため ・毎日水の管理で大変	・お米が出回っていないこと ・米が余ること→牛のエサ、肥料にすることもある。 ・ブランド化されていないこと ・多古米（コシヒカリの10分の1）のようにブランド化されていない。 ・お米を食べる価格が下がっていること	・後継ぎ問題→息子、孫がやってくれば…	・機械が高いため、もとはなかなか取れないのが現状。だいたい10年ぐらいで壊れる。 ・トラクターはおよそ1000万、修理費350～400万程度かかる。
工夫			
・おいしいと言って喜んでもらえるお米作りをめざしたい。 ・冷めてもおいしいおにぎりと評判の声もある。	・インターネット販売→海外へやっている農家もある。そこまではやっていない。 ・東京に直接販売（トラック輸送） ・お米の売りを頼まれて（トラック・バス） ・東北（新潟・青森など）に行つて直接販売→山武市に比べ東北の方が遅い、山武市は早場米 ・個人で出回って売れるようにしたこともある。 ・山武市のお米が出回ってほしい ・お米の値段が上がってほしい→たくさん食べて売れることで上昇	・農業後継者のための研修（新潟）農業のすばらしさを広めるために ・田植え体験→米作りのすばらしさを知ってほしい。	・無農薬→安心、安全のお米を提供 お金をかけずに ・農協でコンバインを貸して行っている地域もある。

資料5 授業の実際の様子

【授業での様子から①】

同じテーマのグループと意見交換・交流の様子



農業体験ができる場所
があるといいね。



山武市のキャラクターをト
ラックに入れるといいね。



山武市の農家の課題の把握 ゲストティーチャー（1回目）



○児童の感想から

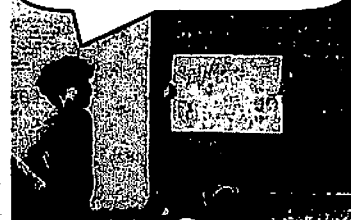
これからどのように改善していったらよい
か参考になった。頑張って考えていきたい
です。

もっと農業が発展するように自分も頑張
りたいと思いました。

山武市の農家の課題の分類の様子

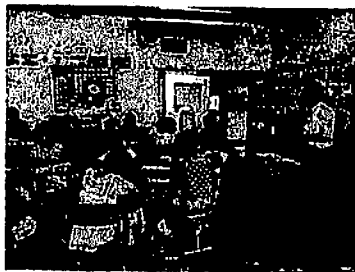


農家の課題を4つに
分類しました。



【授業での様子から②】

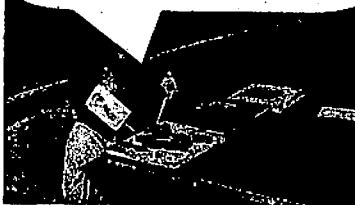
グループごとの発表の様子 ゲストティーチャー（2回目）



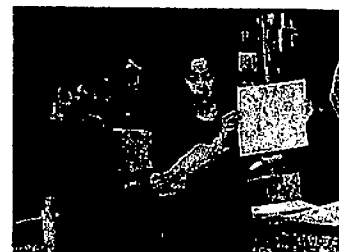
山武市のキャラクターをト
ラックにデザインしました。



ジャンボタニシの駆除の方法について説明します。



チラシやポスターのデザイン
です。



○児童の感想から

①色々な人の意見を聞いて自分の考えが下しに変わりました。

②最終的に自分はリハースがい
い型と思った。

③もう少しルールが分かりわかり
やすく行なう、といければ良いと
思。た、もう少し詳しくは後で
するかもしれないと思いつ
つた。

④自分はずっと本を食べて高くなるようにしたい。

[illegible][illegible]

ゲストティーチャー導入（1回目）

◎授業の感想を書きましょう。(6)月(9)日

お米がもしなくなったらいやなだ"な〜とサ
んな思うと思うし、本当にそういうことにな
りたくないのでもう少しでも農家にふれてサ
たいです。①

◎授業の感想を書きましょう。(6) 月 (4) 日

農家で暮らす人たちが、よく食べている。
いすか、よく食べてお米がたべれなくない。
その不安①、たべかきで、人々をいじめる②。

◎授業の感想を書きましょう。(6)月(19)日

今日のじゅぎょうで、私は
農家の人たちはもし自分が農家をやめたら、次の農家はどうか？
と問いました。②

ゲストティーチャー（2回目）

⑥授業の感想を書きましょう。(7)月(3)日(月)
①今日の授業についての感想②自分はどのような考え・結論に達したのか③もっとこうしたい、調べたいと思うことは何か④これから自分ができることは何かを書きましょう。

①川島さん農家にあったことを勉強にしたい。
 花澤さんいすかしくして、お茶のたねと「農家か大変だ」ということ
 きかひをした。②農家の暮らしをききさるがある。またいし。
 ③いす農家をすくれば「取り組むたいです。④山形県や
 新がた県のような米を知るよにみんなて「言月」た発
 未で「三」ているようなことをおろかにえた方法でい
 たい。また⑤ごちの管理、水、植はいまど「人なかんし
 なのか」といふ見回になるべくしてきたい。⑥

①今日の授業についての感想②自分はどのような考え・結論に達したのか③もっとこうしたい、調べたいと思うことは何か④これから自分ができることは何かを考
えましょう。

① + 40 = 46
② 46 - 40 = 6

③ 46 - 6 = 40

④ 46 - 40 = 6

⑤ 46 - 6 = 40

⑥ 46 - 40 = 6

⑦ 46 - 6 = 40

⑧ 46 - 40 = 6

⑨ 46 - 6 = 40

⑩ 46 - 40 = 6

⑪ 46 - 6 = 40

⑫ 46 - 40 = 6

⑬ 46 - 6 = 40

⑭ 46 - 40 = 6

⑮ 46 - 6 = 40

⑯ 46 - 40 = 6

⑰ 46 - 6 = 40

⑱ 46 - 40 = 6

⑲ 46 - 6 = 40

⑳ 46 - 40 = 6

㉑ 46 - 6 = 40

㉒ 46 - 40 = 6

㉓ 46 - 6 = 40

㉔ 46 - 40 = 6

㉕ 46 - 6 = 40

㉖ 46 - 40 = 6

㉗ 46 - 6 = 40

㉘ 46 - 40 = 6

㉙ 46 - 6 = 40

㉚ 46 - 40 = 6

㉛ 46 - 6 = 40

㉜ 46 - 40 = 6

㉝ 46 - 6 = 40

㉞ 46 - 40 = 6

㉟ 46 - 6 = 40

㊱ 46 - 40 = 6

㊲ 46 - 6 = 40

㊳ 46 - 40 = 6

㊴ 46 - 6 = 40

㊵ 46 - 40 = 6

㊶ 46 - 6 = 40

㊷ 46 - 40 = 6

㊸ 46 - 6 = 40

㊹ 46 - 40 = 6

㊺ 46 - 6 = 40

㊻ 46 - 40 = 6

㊼ 46 - 6 = 40

㊽ 46 - 40 = 6

㊾ 46 - 6 = 40

㊿ 46 - 40 = 6

④授業の感想を書きましょう。(7)月(3)日(月)
①今日の授業についての感想②自分はどういう考え・結論に達したのか③もっとこうしたい、調べたいと思うことは何か④これから自分ができることは何かを書きましょう。

① みんなの発表は、あーさういうアイディアもあるな、あ、いいよ
と思うのがたくさんありました。川島さんのお話も聞いて良かったです。

② アイディアとしては、③や班主と同じで泊まり、農家の大変さ、楽しさがわかる。

③ 農家村をつくりたいと思、います。

④ もっとアイディアを広めてみんなに

⑤ 発表したいです。

⑥ やはり、伊勢、箱根、箱根村、いろいろ
なことがみんなと協力してやりたい
です。⑦

授業終了後（お礼の手紙）



川島さん、花澤さんへ
 ぼくは、最ネ刀農家の人たち
 が減っていることや興味なんて
 もっていませんでした。グループ分
 けをし4つの言葉題に分けてや
 ったのですごく興味をもちました。
 だからこれからもお米を作る
 エタを覚悟したいと思ひます
 たからぼくたちは、できたら
 けアアイデアをたくさん考へるの
 でまたたくさん教文てくだ
 さい。

そしておいしいお米かできん
 のを望しかにしてひます。
 かんは、てください。



田んぼの先生

川島さん、花澤さん

10月25日に来て下さりありがとうございました。大変いそがしい時にきてく
 ださりいろいろなことを教えてもら
 い感謝射しています。

お米のことをいっはい矢口ることか
 できました。

わたしは、もともとお米のことか
 知りたひと思ひます。

そしてお米について学んだことを生
 かしたいと思ひます。

勉強や社会にも、役立
 たいと思ひます。



田んぼの先生

川島さん、花澤さんへ

川島さん 10月25日に来て下さりありが
 とうございました。

わたしたちは、川島さんや、花澤さんの意見やこうしてい
 きたいという言葉を聞いて、大変なんだなあと思ひました。

① お米は農家の飯が育ててくれるから、今お米おいしく食
べたいと思ひます。とても感謝射します。川島さん、花澤さ
 んの農家をかんは、てください。

わたしたちも川島さん、花澤さんのような農家のことについ
 て、② これから考へていきたいです。だてお米が好き

だからです。ごは人は、栄養あり体にいいおいしい
 食べ物だからです。みんなものを食べない人は私です。

③ お米をこれから今以上にいっはい食べたい
 です。川島さん、花澤さん体に気をつけて
 農家を長くしていつてください。



川島さんと花澤さん

川島さんは「田んぼに来て下さりありが
 とうございました。花澤さんは来られなくて、た
 けお、エタや願いを教へてくれてありがとうございました。川島さんと花澤さんのおかげで、みんな
 が大分なれたことばい矢口のことかできました。

私は、最初、あまり興味がありませんでした。でも、

① 花澤さんと川島の話を聞いて、たくさんの農家
のことが矢口ことば興味をもりました。教科書にのて
 ないことや川島さんと花澤さんのおかげで、わたりまし

た。② アイデアなどをちゃんと聞いてくれてうれしな
 です。『田んぼでふれたな』と思ひました。

いろいろな問題をまとめた時に、いろいろな
 問題があることばついて、大変だと思ひ
 ました。必死にお米のことについておまて
 ふれたです。



